

令和 7 年 3 月 1 1 日

八王子市立秋葉台小学校

校長 佐藤 英樹

令和 6 年度 八王子市立秋葉台小学校 学校経営報告書

1. 今年度の取り組み

☆ 主題「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成」…全ては子どもたちのために

副題として、「自ら積極的に課題に取り組み思考力を高め、多様な価値観を尊重し他者と協力できる、児童の育成」とした。さらに「健康で明朗な児童の育成」を目指した。

この主題・副題は中長期的な目標でもあり、数年間にわたって取り組んで来ているものであるが、昨年度の学級閉鎖状況は常軌を逸しており、また学力は高い水準を維持しているが体力は全ての項目で平均値を下回ることから、今年度は学校目標のひとつである「健康で明るい子ども」を第一として取り組む体制をしいた。校内研究のテーマを「運動を楽しみながら、自ら体力を高めようとする児童の育成」とし、教師道場リーダー(体育)を研究主任とし、道場を指導する教授に研究を年間を通してみていただいた。

結果として学級閉鎖は劇的に減り、感染症の流行による学級閉鎖は防ぐことが出来たが、体力向上の点では引き続き到達目標をいかにクリアしていくかが課題として常にあり、今年度から次年度にかけて様々な実施の手立てを工夫しながら、また学校運営協議会と連携をしながら、「できることを確実にやる」ように進めた。

① 「よく考え、進んで学ぶ子ども」の育成

- ・ 前述のとおり、昨年度は学級閉鎖が多発した中、思うような教育活動ができない状態ではあったが、本校の強みであるＩＣＴの活用(GIGA スクール構想)を活用し、「学びを止めない」「各教科・各単元で未履修を出さない」ことを念頭に、閉鎖等でも自宅で授業を受ける事や、夏期休業中の補習活動を実施するなどを今年度も引き続き取り組んだ。

各家庭における教育に対する熱心さと相まって、学力については今年度も都平均値を上回る水準を確保できていた。オンライン配信についても、創意工夫をして最も効果的な学習のツールのひとつとして、また普段の授業においても有効な学びのツールとして頻繁に利用している。全教員があらゆる教科指導において活用できる力を持ち、児童数が604名の大規模校のため、同時に使用できる台数が制限されてしまうが、工夫をして乗り切っている。

- ・ C4thのHome & Schoolを3年前の年度当初から導入、今では保護者の利用も問題なく運営している。保護者と学校の連絡を簡便にでき、健康観察を確実に行え、また学校ホームページ内容を確実に伝達する手段として家庭に定着している。
- ・ 学校授業においては、4年前から昨年度まで、教職員各自の「授業力向上」を課題とさせ、各自の目標を明確化させ研究活動をもとに普段の授業を実施させている。ねらいを明確にしたわかりやすい授業、評価の一体化、個々の自己評価能力、相互評価能力を伸長させ、OJTを計画的に実行し、中心に主幹教諭、研究主任を充て、「自ら積極的に課題に取り組み思考力を高め、多様な価値観を尊重し他者と協力できる、児童の育成」をICTをツールとして活用しながら、低・中・高・特支ブロック毎に全校取り組みを

実施した。これをそのまま今年度の研究「体力向上」にも活かし、児童の学力・体力向上に還元されるように実施している。

- ・ 図書室を活用し司書と連携した授業づくりを持続して進め、本に親しむ態度、本を活用する力を育てさせた。学級、学年、職員室前にも蔵書を置いて様々な本に接する機会を増やした。特に SDGs の観点を重視し蔵書を整えつつある。
- ・ 運動会では、昨年度に引き続いて、通常の形での実施ができた。また学習発表会(作品展示)についても同様になり、好評であった。

② 豊かな人間性の育成

- ・ 「特別の教科 道徳」については児童の心にひびき合う指導を工夫した授業とその評価方法を校内研究や研修を行い、豊かな心を育む教育の充実を図るよう促した。道徳授業地区公開講座は ICT も活用して実施することができた。また、全教員に年間 1 回以上道徳授業を研究授業として公開させている。
- ・ 学校生活についての課題意識をもたせ、特に高学年では児童が自分たちで解決しようとする意欲を高めさせ、他者を認めてよりよい人間関係を築こうとする自主的・実践的な活動を充実させた。

③ ESD、オリパラ教育

- ・ 国際理解教育、環境教育、福祉教育などを通じて、コミュニケーション力や国際感覚の基盤を培い、誰とでもひるまずに関わることのできる児童を育成するため、環境教育について、学校全体で関心を持たせ、児童の実態に応じた活動に取り組ませるように計画。地域の教育資源（自然・人・伝統・文化・施設等）を活用した体験的な学習の充実

を図り、感染症大流行前の状態にできる限り戻せるよう実施をしてきた。

- ★ 児童の体力・運動能力調査や全校一斉に取り組んだ縄跳び週間等、心身共に健全な習慣と態度を育成。本校児童は学力は高いが、一部の突出した児童を除いて運動に関する平均値が引き続き低い。担当者中心に体力向上の工夫を実践させてきた。また次年度も引き続き学校全体での体力向上に関する研究を課題とする。

④ 特色ある教育活動、生活指導、特別支援教育活動等

- ・ I C Tを活用した教育活動を実施するにあたり、課題解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む意欲と態度を育成すると共に、情報モラルの意識をもたせ、人権上の意識を向上させている。
- ・ 特別活動において、異常気象(高温)などの様々な制限があり、異学年集団での活動がかなり制限されてしまった。次年度は体育館空調も使用できることから、特別活動を充実させ、本校小学校の一員としての所属感・連帯感を高め、自らの役割を自覚させ責任をもって行動する態度を引き続き醸成していく。
- ・ 児童から聞き取りアンケートを定期的を実施し、「いじめ防止基本方針」に基づき「いじめ対策委員会」を活用し、全校を挙げて、いじめの未然防止と早期発見・解決に努めさせている。
- ・ セーフティ教室、SNS 学校ルール・家庭ルール、不審者対応訓練、避難訓練、安全指導、交通安全教室を通して、命の大切さを理解し、自ら守り、安全に注意して生活する態度を養った。年間計画に基づいて全てを実施できた。

- ・ 学校・家庭・地域の連携について、学校だより・ホームページ等を通して、積極的に発信するほか、学校運営協議会にて学校評価の結果等を踏まえながら基本的生活習慣の一層の確立を図った。
- ・ 食育を推進すると共に、食物アレルギーのある児童にきめ細やかに対応し、保護者とも年度当初に栄養士・養護教諭・管理職による面談を実施して、徹底した事故防止に努めた。
- ・ 特別な支援が必要な児童に対し、家庭や関係諸機関とも連携し、校内委員会で共通理解を図りながら、発達段階や障害の実態に応じた指導を実施した。特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラー、特別支援教室専門員や特別支援指導補助員を活用しながら、組織的な支援体制を構築し、個別指導等、柔軟な学習形態を選択することで、教育効果の向上と能力の伸長を図った。

また、不登校への組織的対応・支援や、人と人との関わりを重視した指導の徹底に努めさせた。今年度から不登校対策主任を置き、さまざまな対策を行い、不登校児童がオンラインに参加したり登校が少しずつ可能になってきた児童も見られた。

現在、不登校もしくは不登校傾向のある児童は全員、担任・養護教諭・カウンセラー・スクールソーシャルワーカーなどにつながっている。

2. 総括と課題

秋葉台小学校児童はかわらず、素直で、よく努力をし、真面目で、心身共に健康な子が多い。個の意識が比較的高く、自己肯定感も高い。学校評価においても、ほぼ高い評価をいた

だいているが、一方で昨年度と同様にコロナ禍収束のあと、インフルエンザ等を中心とした感染症が爆発的に流行したこともあり1年間たった今でも、前述したように体力低下傾向が引き続き深刻である。また異学年交流が少なかったことから高学年が低学年に範を示す場面がまだ十分とは言えず、これを工夫をして改善することが引き続き課題である。教職員一丸となり本校のスローガン「全ては子どもたちのために」を念頭に置いて経営にあたることが肝要である。